

お客様のケーススタディ

HORIBATOCADERO



HORIBA Tocadero社による廃水分析装置のスマートメンテナンス

HORIBAグループについて

HORIBAグループは、自動車分野の研究開発から、プロセスおよび環境モニタリング、体外医療診断、半導体製造、計測、広範な科学研究開発、QC測定まで、幅広い用途に対応する機器やシステムを提供しています。

- 50社が集まるグループ
- 世界27カ国で展開
- 従業員8,500人

HORIBAグループの子会社であるHORIBA Tocadero社は、産業用および環境用の高度な水質分析装置を提供しています

課題

HORIBA Tocadero社では、廃水に含まれる全有機炭素量 (TOC) の分析を、ダウンタイムを最小限に抑えながら確実に行う方法を模索していました。装置のダウンタイムが長引けば、気付かないうちに、未処理の廃水が環境中に放出されるなどの事故が発生してしまう可能性があるからです。そこで課題となっていたのは、ダウンタイムを最小限に抑え、かつリーズナブルなコストで、TOC分析装置を効率的にメンテナンスすることでした。

ソリューション

AMAは、見ているものを共有しながらハンズフリーで作業が行えるリモートメンテナンスのためのソリューション、XpertEye Essentialを提案しました。XpertEye Essentialにより、技術者は端末やシステム、装置の遠隔監視・修理を行うことができます。また、機器が停止してしまう前に不具合を修正する予知保全が可能のため、スマートメンテナンスの全面的なアプローチをサポートします。

結果

高度に複雑な機器やシステムも、ARテクノロジーを利用した支援と指導に頼ることで、長期間のトレーニングなしで操作や保守が可能となりました。また、サービスエキスパートや保守作業員の現場訪問を減らすことで、メンテナンス費用の大幅な削減を実現しました。

XpertEyeを使えば、サービスエンジニアがTOC分析装置を遠隔で監視できるため、チームは今後のメンテナンスを検討し、必要に応じて事前にアプリケーションの支援を提供することができます。

スマートグラスは、現場の作業員をサポートし、質の高いサービスを確保するのに役立っています。HORIBA Tocadero社のキーアカウントマネージャー、Stefan Vosskötter博士は次のように説明します。「専門家は、サービスエンジニアが行っていることを見ながら、助言したり、スマートグラスの画面に注釈を加えたり、文書を送信して追加の支援を行ったりすることができます。」

さらに、スマートグラスは、作業員が分析装置にアクセスし監視する作業を遠隔で支援します。時間とコストをかけ、顧客のもとに毎回サービスエンジニアを派遣する代わりに、サービスセンターにいる専門家が質問に答え、作業員を即座に支援することができるのです。「お客様もチームの同僚たちも、自分のいる場所に左右されず、即座に遠隔サポートが受けられます。どちらにとってもWin-Winの関係です」とVosskötter博士は述べています。



動画による証言を見る

一目でわかるメリット

- TOC分析装置のダウンタイムを大幅に削減
- サービスエンジニアを現場に派遣しないことで、訪問日数を最大5日間削減
- 業務コストの削減
- 新規および既存の顧客に対する高度な遠隔サポート
- カーボンフットプリントの削減



「XpertEyeソリューションを採用してから2年が経ちましたが、結果として、メンテナンスを迅速かつ効率的に行うことができ、装置の稼働時間が増加しました。また、AMAのソリューションにより、社内外のサービスをさらに拡大・向上させることができるようになりました。」

Stefan Vosskötter博士

詳細を知る